§冥界[Cyclic Order]
　死と輪廻の世界。偽装世界を動かすために作られたリサイクル構造が、冥界と死神のシステムである。その存在に時間制限（＝寿命）が設定されている生き物（特に人間）は、時間切れになったら肉体が崩壊し、中に入っていた魂（＝霊体）は死神によって回収される。魂は冥界に運ばれ、そこで次の肉体に入るための洗浄（記憶や経験の消去）が行なわれる。稀にその洗浄が不十分なものがおり、このような魂が新たな肉体に宿ることで、前世の知識をもったものが生まれることになる。

　魂の洗浄は炎によって行なわれる。回収された魂は、生きていたときの残滓がこびりついている場合がある。この残滓は人間の意識をほぼ同じである。この残滓は洗浄の際に焼き尽くされるが、これが”地獄の業火に焼かれる”と描写される。

　洗浄された魂は、新たな肉体に宿るまで、池のようなところに溜めておかれる。

§彷徨える魂と魂無き者達
　「HexRace」 のルールに記載されている以下の種族が、冥界と深いかかわりがある。

　・ゴースト／ファントム
　・ライフレス／ゾンビ
　・死神

〇肉体と霊体と意識体
　全ての生き物は、肉体、霊体、意識体の３つから構成されている。

１）肉体
　物理的な実体を持ち、血肉を備えた体のこと。魔界のデーモンには、いわゆる肉体ではなく、物質やエネルギーの集合体としての体を持つものも存在するが、それも肉体に分類される。

２）霊体
　後述する意識体と肉体を接続する接着剤のような役割を持つ非実体の体。明確な形の無い意識体を、肉体という”枠”の中に収める殻のような役割を持つ。

３）意識体
　精神体や魂とも呼ばれる体。非常に不安定で様々な影響を受け易く、生き物を構成する要素の中では最も脆い。

〇ゴースト／ファントム～彷徨える魂～
　前述の「肉体／霊体／意識体」の内、肉体を失ったにもかかわらず、生物的な死に至らなかった者達。肉体が無いため、物理的に干渉することができないし、干渉されることがない。
　死んでいるはずなのに自我を持ったまま活動できる状態となっているため、冥界のリサイクル構造からは完全に外れた異常な存在といえる。

〇ライフレス／ゾンビ～魂無き者～
　前述の「肉体／霊体／意識体」の内、霊体を失ったにもかかわらず、意識体が肉体から分離せずに生物的な死に至らなかった者達。意識体が正常に肉体と接続されていない（＝霊体が無い）ため、その肉体は正常に機能せず崩壊していく一方である。
　死んでいるはずなのに自我を持ったまま活動できる状態となっているため、冥界のリサイクル構造からは完全に外れた異常な存在といえる。

〇死神～魂を刈る者～
　元は人間で、死んだ直後に魂を借り集める存在にされた者達。死神が自らの役割を終え、冥界のリサイクル構造の流れに戻る際、別の人間に死神としての役割を継承させることで、その存在が存続されている。
　前述の「肉体／霊体／意識体」の内、意識体を失った者達である。死神になった直後は、人間だった時の記憶を持ち、自我や思考がはっきりしているため、死神として仕事をしないことがよくある。しかし、その記憶／自我／思考はただの残滓である。意識体が失われているため、記憶はどんどん失われ、最終的に魂を刈り取る役目だけを機械的に行う存在となる。
　意識体が失われているということは、自ら正しく思考することができないということである。死神になった際、意識体のかわりに死神として活動するための霊的行動プログラムが埋め込まれる。記憶／自我／思考の残滓がある間は、その霊的行動プログラムに逆らって行動する死神が存在する。具象界でその存在が囁かれる死神とは、そういったものかもしれない。
　生き物としては冥界のリサイクル構造からは外れた存在ではあるが、その流れの中から外に出て、流れを制御する役割を持たされる存在である。

§死者の館(Ghost House)／死者の街(Ghost Town)
　本来は何も無いところに建物があり、そこには幽霊が出入りしていることがある。見た目は空き地のようだが、高い霊的知覚力を持つものには、そこに建物が見えることがある。これは建物の幽霊であり、『死者の館』と呼ばれるものである。

　『死者の館』には、ゴースト／ファントム、ライフレス／ゾンビが集まってくる習性があり、幽霊の社交場になっている。彼ら／彼女らは、さながら生前のように振舞おうとしており、礼儀知らずは叩き出される。

　『死者の館』は、火事で焼け落ちてしまった所、地震や他の災害で失われた建物のあった場所に現れる。街中でよく空き地にこういった『死者の館』が存在するが、そこは自殺や変死体が見つかったいわく付きのため買手がつかず、放置されたままの空き地だったりする。

　どう見ても荒野にしか見え無いが、幽霊の街がまるごと出現する場所がある。これは『死者の街』と呼ばれる。多数のゴースト／ファントム、ライフレス／ゾンビが生前のようにふるいまい振舞い、生活していることもある。『死者の街』はダムなどの人造湖の上（水の上）に出現している例もある（その下には昔の街が沈んでいる）。

　『死者の館』も『死者の街』も、ほとんど偶然にように出現する曖昧な代物である。いつもそこにあるとは限らない。例えば新月（満月）の夜だけ出現する『死者の街』や、週末だけに出現する（その建物の元の持ち主がいつも週末に人を呼んでパーティーを開いていた）／ある故人の誕生日の時だけ出現する『死者の館』というのもある。

　『死者の館』や『死者の街』には、稀に普通の人間が迷いこむことがある。特に高い霊的知覚力を持つものには、それらが実体と同じように感じ取れることがある。